

日本保育学会第十二回大会記事

日本保育学会第十二回大会は、昭和三十四年五月二三日（土）（午前九時一五分—午後六時七分）および二四日（日）（午前九時八分—午後六時）の両日にわたり、東京家政大学（東京都板橋区板橋町六）の講堂を会場として開催された。

二日間とも、終日、あいにくの雨であったが来会者約九〇〇名（正会員三六一名、新入会員六四名、準会員五二七名）および、全国各地から参加された会員の真摯な研究発表（五八課題）で、終始満堂に探求的な雰囲気がくわづかれていた。

プログラム

開会の挨拶

（午前九時二〇分）

副会長 荘司 雅子

これに先立ち、大会準備委員長（森重敏）の挨拶ならびに進行に関する注意があつた。

研究発表（午前九時三〇分—午後六時）

発表は課題により、三七名を一グループとして、全一二グループに分けておこない、

（一） 同三三年度会計報告（鈴木とく常任委員報告）

（二） 同三三年度事業報告（竹田常任委員報告）

児玉省 鈴木とく 鈴木信政 竹田俊雄

各人八分の発表時間、グループごとに八分の質問時間が設けられた。発表数四二。（番号二・二九は取り消し。題目・氏名は本誌目次参照）

会場校学長挨拶（午後一時）

東京家政大学学長 有光次郎

委員会（午後六時） 次期大会開催地を大阪樟蔭女子大学とする常任委員会の案を了承。同大学教授斎藤一也氏の挨拶があつた。

△第二日▽

研究発表（午前九時八分—一二時）

進行方式は前日同様。発表数一六。（題目・氏名は本誌目次参照）

総会（午後一時—一時五〇分）

（午後一時—一時五〇分）

本年度の総会は、山下俊郎会長を議長として進められ、次の議事が承認あるいは決定された。

（一） 昭和三三年度事業報告（竹田常任委員報告）

（二） 同三三年度会計報告（鈴木とく常任委員報告）

（三） 同三四年度事業計画協議（竹田常任委員

説明） 第十二回大会開催、倉橋賞授与（後記）、幼児の教育（九月号）に大会発表を特報、共同研究を今年中に完結、会報の発行、会員名簿の作成、国際教育会議に山下会長出席（八月下旬～九月上旬）など。

（四） 同三四年度予算案協議（鈴木常任委員説明） 第十三回大会開催地協議 前日の委員会における案に全員賛成、次のように決定した。

（五） 第十三回大会 大阪樟蔭女子大学

・開催時期 昭和三五年五月（最後の土・日）の予定）

（六） 役員改選

改選の結果、次の委員が満場一致で決定された。

（会長） 山下俊郎

（副会長） 小川正通

（常任委員） 荘司雅子

平井信義 松村康平 村山貞雄 森脇 要
〔委員〕 秋田美子 池田勝人 植松治子

シンボジウム（三時一五分—五時五〇分）
「マス・コミュニケーションと幼児保育」

司会

山下俊郎

城戸幡太郎 小西勝一郎 斎藤一也 坂元
彦太郎 鳥津峯真 周郷 博 副島ハマ
高橋さやか 珠川善子 玉越三朗 津守

保育とラジオ・テレビ・絵本 波多野完治
ラジオ・テレビと幼児保育
坂元彦太郎・本野亨一・秋田美子

眞 内藤寿七郎 西本 優 根岸草笛
野間郁夫 波多野完治 日名子太郎 古木
重敏 守屋光雄 橫田栄三郎 吉見静江

絵本と幼児保育
竹田俊雄・猪野賢一・土屋真砂子
(要旨は本誌参照)

〔会計監査〕牛島義友
弘造 堀 要 三木安正 宮内 孝 森
レクリエーション (午後一二時三〇分—
一時三〇分)

閉会の挨拶 (五時五九分)
このようにして、本大会は、午後六時、盛
会裡に終了した。

総会と平行して、講堂で準会員に対しても映
画「フラストレー・ティング」(幼児の欲求不
満—カナダ映画)および「ミクロの世界」が
上映された。

倉橋賞授与式 (二時五分—二時一五分)

受賞者 東京都足立区立関屋幼稚園

清水エミ子

第十二回大会準備委員会委員

上原万里子・伊藤礼子(児童学研究室)

共同研究発表 (二時二五分—三時)

川崎千束・種房美代子・佐藤協子(付属
みどりヶ丘幼稚園)佐藤芳子・太田佳子

「大正から昭和期の保育界」
岡田正章・宍戸健夫・水野浩志
(本学出身) 以上

(要旨は本誌参照)

(森 重敏記)

幼児の教育 第五十八巻 第九号

九月号

◎

定価五〇円

昭和三十四年八月二十五日印刷

昭和三十四年九月 一月発行

東京都文京区大塚町三五
お茶の水女子大学付属幼稚園内

編集兼 発行者 津 守 真
東京都板橋区志村町五番地

お茶の水女子大学付属幼稚園内
東京都文京区大塚町三五

発行所 日本幼稚園協会

印刷所 凸版印刷株式会社
東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館
振替口座東京一九六四〇番

◎本誌の購読についてのご注文は発売
所フレーベル館にお願いいたします。